

外為マンスレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2017/10/04

金融政策正常化の動き、南半球にも及ぶか

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">豪ドル/円</a>	➡	利上げ観測とインフレ率 予想レンジ: 86.500~ 91.500円	2-3
<a href="#">NZドル/円</a>	➡	NZと本邦の選挙に振り回されるか 予想レンジ: 78.200~83.900円	4-5
<a href="#">ランド/円</a>	↘	三角もち合い下限が視野に 予想レンジ: 7.900~8.600円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



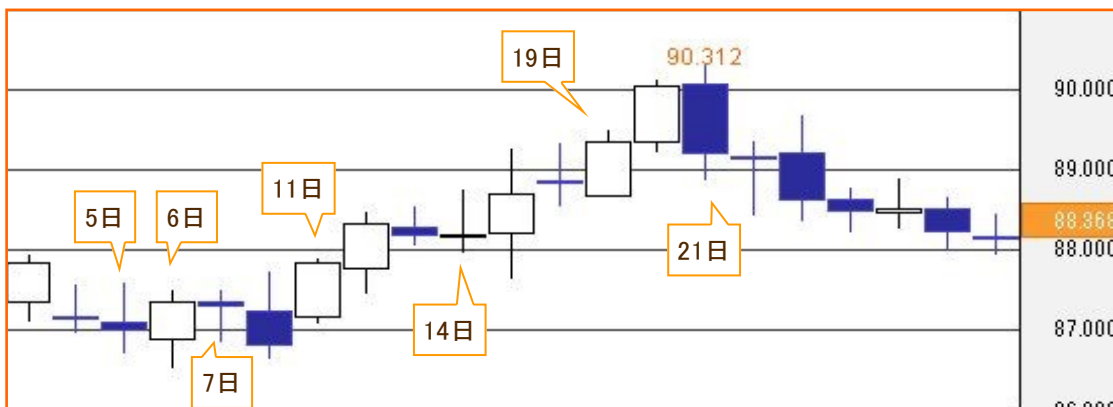
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 豪ドル/円 9月の推移

AUD/JPY

9月の豪ドル/円は、86.559～90.312円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.9%の上昇（豪ドル高・円安）となった。北朝鮮の核実験やミサイル発射が豪ドルの圧迫要因となる場面が何度あったが、全体としてみれば影響は小さく、世界的に株価が上昇する「リスク・オン」の流れの中で、豪ドル高・円安が進んだ。米連邦公開市場委員会（FOMC）が行われた20日には2015年12月以来約1年9カ月ぶりに90円の台を回復した。豪中銀（RBA）の政策スタンスも米FOMCに倣っていずれタカ派化すると先読みが働いたと見られるが、ロウRBA総裁が翌21日にこうした見方を一蹴すると、下旬にかけて上げ幅を縮小した。



## 四本値

OPEN	87.366
HIGH	90.312
LOW	86.559
CLOSE	88.146

5日	RBAは、予想通りに政策金利（1.50%）の据え置きを発表。同時に「政策スタンスを変更しない事が経済の持続可能な成長と、時間をかけてインフレ目標を達成する事に一致」「低水準の政策金利が豪経済を引き続き支えている」などとして、早期に政策を変更する可能性が低い事を示唆。また、「為替レートの上昇は経済における物価圧力の抑制に寄与すると予想される」「為替の上昇が現在の見通しよりも経済活動やインフレを鈍化させると予想」などと通貨高に対する懸念を示した。その後、北朝鮮をめぐるリスクが意識されたほか、米南部に接近したハリケーン「イルマ」が最強のカテゴリー5に発達した事への懸念からNYダウ平均が一時250ドルを超える下げとなった。こうした中、豪ドル/円は86.70円台まで下落した。
6日	豪4-6月期国内総生産（GDP）が、前期比+0.8%、前年比+1.8%となり、市場予想（+0.9%、+1.9%）に届かなかった事を受けて一時豪ドル売りが強まった。しかし、トランプ米大統領が「北朝鮮での軍事行動は第1の選択肢ではない」と表明したのに続き、「3カ月の債務上限延長で合意した」と発表すると、リスク回避ムードが和らぎ豪ドルが反発した。
7日	豪7月小売売上高が前月比±0.0%、豪7月貿易収支も4.60億豪ドルの黒字と、いずれも予想（+0.2%、10.00億豪ドルの黒字）を下回った。これらを受け、豪ドル/円は売り優勢となった。
11日	北朝鮮が9日の建国記念日の前後で問題行動を起こさなかったためオープンから豪ドル買い・円売りが活発化。米南部を襲ったハリケーン「イルマ」が熱帯低気圧に勢力を弱めた事を好感してNYダウ平均が22000ドルの台に乗せるなど、米国株が上昇する中、87円台後半へと反発した。
14日	豪8月雇用統計は失業率5.6%、就業者数5.42万人増（市場予想：5.6%、2.00万人増）と良好な結果となった。就業者数の内訳で正規雇用者数が4.01万人の大幅増加となった（前回は1.99万人減少）事もあって、88.70円台へ急上昇した。しかし、北朝鮮がミサイル発射の準備をしている模様と改めて報じられた事を受けてNY市場で反落した。
19日	RBAは5日の理事会議事録を公表。「雇用は堅調な伸びを見込む」「鉱業以外の投資見込みも改善。公共インフラ投資は力強い」と前向きな見解を示しつつも、「豪ドルの上昇は米ドル安が背景」「豪ドルのさらなる上昇は経済成長やインフレを鈍化させる」などと、改めて通貨高に懸念を示した。
21日	ロウRBA総裁は、「豪経済に改善が見られる」「金利は低下よりも上昇の可能性の方が高い」などとしながらも、「すぐにインフレが2.5%を超えることは困難」「世界的な金利上昇が自動的に豪州と関連するわけではない」として、近々の利上げの可能性を否定した。

AUD/JPY

## 日経平均

OPEN	19733.57
HIGH	20481.27
LOW	19239.52
CLOSE	20356.28

## NYダウ平均

OPEN	21981.77
HIGH	22419.51
LOW	21709.63
CLOSE	22405.09

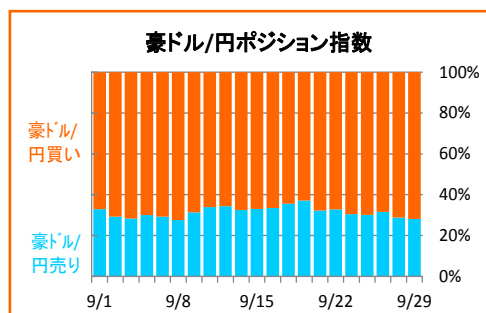
## 上海総合指数

OPEN	3365.991
HIGH	3391.644
LOW	3332.598
CLOSE	3348.943

## 豪10年債利回り

OPEN	2.670%
HIGH	2.888%
LOW	2.553%
CLOSE	2.839%

## 9月のポジション動向



## 10月の豪州・中国の注目材料

- ・8月豪住宅建設許可件数(3日)
- ・RBA政策金利発表(3日)
- ・8月豪貿易収支(5日)
- ・8月豪小売売上高(5日)
- ・8月豪住宅ローン件数(12日)
- ・9月中国貿易収支(13日)
- ・9月中国消費者物価指数(16日)
- ・RBA議事録(17日)
- ・9月豪雇用統計(19日)
- ・9月中国鉱工業生産(19日)
- ・7-9月期中国GDP(19日)
- ・7-9月期豪消費者物価指数(25日)
- ・7-9月期豪生産者物価指数(27日)
- ・10月中国製造業PMI(31日)

## 10月の見通し

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

豪中銀(RBA)は10月3日の理事会で、政策金利の据え置きを決定した。1.50%の据え置きは13会合連続と長期化。声明でも、当面は中立スタンスを維持する姿勢を滲ませた。ただ、市場は2018年半ばの利上げを織り込み始めており、18年4月理事会での利上げの確率(金利デリバティブ市場の織り込み度合い)は40%超、7月は60%超となっている。つまり、市場はRBAが近い将来にタカ派化するとの見方を強めていると考えられる。米国やユーロ圏のほかカナダや英国など、先進国の中銀の多くが金融政策の正常化へと舵を切り始めた中、豪州も遠からずこれに追随するとの見方が足元の豪ドル相場を支えているようだ。

そうした中で、今後注目すべきは25日に発表される7-9月期豪消費者物価指数だろう。前期(4-6月期)は前年比+1.9%とRBAのインフレ目標レンジ(2~3%)を下回る伸びに留まっており、RBAがより重視する基調インフレ率は前年比+1.8%とさらに低調だった。なお、RBAはこの基調インフレ率について、8月に示した見通しで今年(2017年)の下半期に2%を超えると予測している。25日の結果によって2018年央の利上げ観測が大きく左右される公算が大きく、豪ドル/円相場もそれに沿って動く事になるだろう。(神田)

(予想レンジ: 86.500-91.500円)

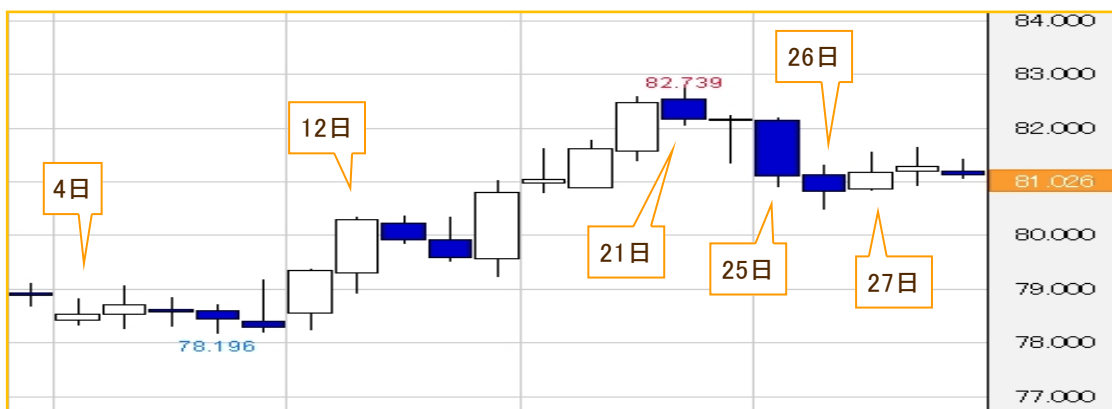
## NZドル/円 9月の推移

NZD/JPY

9月のNZドル/円相場は78.196～82.739円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.8%の上昇(NZドル高・円安)となった。

NZ総選挙についての世論調査に一喜一憂する場面が見られるも、その後は世界的な株高による「リスク・オン」の動きや、本邦の緩和スタンスを背景とした円売りの流れなどから堅調に推移。21日に82.739円まで続伸した。一時は劣勢が伝えられていた与党・国民党の支持率が持ち直した事も追い風となった。

ただ、その後は米年内利上げ観測が浮上して対ドルでNZドルが弱含んだ事や、NZ総選挙で与党の過半数割れにより政局に対する不透明感が漂った事も重しとなり、26日に80.50円前後まで上げ幅を縮小した。



## 四本値

OPEN	78.951
HIGH	82.739
LOW	78.196
CLOSE	81.135

4日	NZ総選挙の世論調査で、野党・労働党の支持率が39.8%、連携する緑の党の6.2%とあわせると、与党・国民党(41.6%)を上回った。NZ政局の不安定化を嫌気してNZドル/円が一時78.30円台まで下落。ただ、売り一巡後は買戻しが優勢となった。
12日	NZ総選挙の世論調査で、国民党の支持率が47%と、労働党の38%を上回った。政局の先行き不透明感の後退を受けてNZドル買いが優勢となった。
21日	NZ4-6月期国内総生産(GDP)は、前期比+0.8%、前年比+2.5%と市場予想通りであった。NZドル/円は発表直前に82.739円まで値を上げるも、買い一巡後は反落した。
25日	前週23日に実施されたNZ総選挙で、与党・国民党が勝利するも過半数に届かなかった。連立のカギを握るNZファースト党は選挙の最終結果が判明する10月7日以降に連立先を判断するとした。NZ政局に対する不透明感が重しとなってNZドル/円は下落した。
26日	NZ8月貿易収支は12.35億NZドルの赤字(予想:8.25億NZドルの赤字)となった。
27日	NZ中銀(RBNZ)は政策金利の据え置き(1.75%)を決定。声明でNZドルについて「NZドルの下落は貿易財インフレの上昇と、より均衡の取れた成長実現への支えになる」と前回の「実現に必要なになる」との文言よりトーンが幾分和らぐも、緩和的姿勢が維持されたことから、NZドルが弱含んだ。



## NZD / JPY

## 日経平均

OPEN	19733.57
HIGH	20481.27
LOW	19239.52
CLOSE	20356.28

## NYダウ平均

OPEN	21981.77
HIGH	22419.51
LOW	21709.63
CLOSE	22405.09

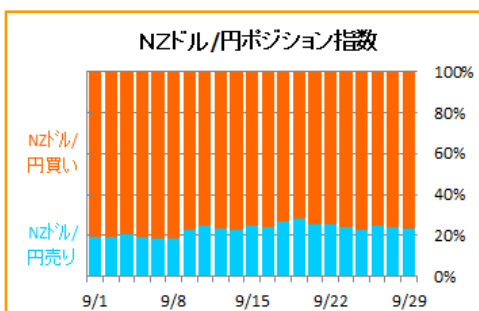
## 上海総合指数

OPEN	3365.991
HIGH	3391.644
LOW	3332.598
CLOSE	3348.943

## NZ10年債利回り

OPEN	2.896%
HIGH	3.078%
LOW	2.739%
CLOSE	2.966%

## 9月のポジション動向



## 10月のNZの注目材料

- ・NZフォンテラ入札(3日、17日)
- ・NZ総選挙の最終結果公表(7日)
- ・9月NZ企業景況感(PMI、13日)
- ・7-9月期NZ消費者物価指数(17日)
- ・9月NZ貿易収支(26日)
- ・9月NZ住宅建設許可(31日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

## 10月の見通し

9月に実施されたNZ総選挙(定数120)について、即日投票分では国民党(中道右派)が58、労働党(中道左派)が45と、どちらも単独過半数に届かなかった。緑の党(中道左派)は7議席に留まっており、議席数9のNZファースト党(保守、ポピュリズム)がキャスティングボードを握る格好となっている。同党は自由貿易協定(FTA)に批判的であることや、法人税減税や環太平洋パートナーシップ(TPP11)からの離脱を掲げている。連立の行方次第では大衆迎合的な政策が今後採用されやすくなる恐れがあり、政局運営に影を落とす事も考えられる。総選挙の最終結果が公表される予定となっている7日以降は、連立交渉の本格化が予想される。関連報道に注意したい。

また、本邦では衆議院選挙(22日)が予定されている。今回は自民・公明で過半数を獲得できるかが焦点だ。市場予想では過半数を割る公算は小さいが、希望の党の躍進などでその見方が揺らぐようならば波乱要因となろう。事前予想通りの結果となればサプライズは小さいと見るが、週明け23日の早朝は取引の薄い中で神経質な動きとなる事も考えられる。ポジション管理には細心の注意を払いたい。(川畑)

(予想レンジ: 78.200~83.900円)

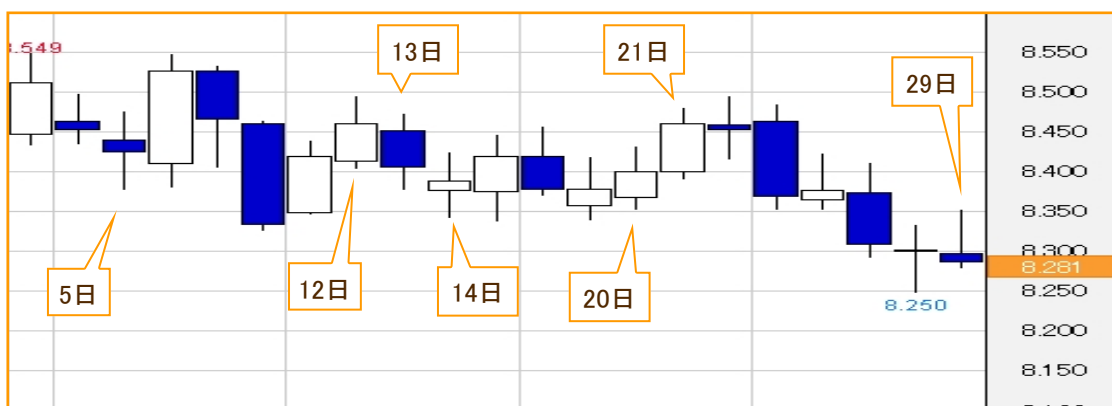
ZAR/JPY

## ランド/円 9月の推移

9月のランド/円相場は8.250～8.549円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.9%の下落(ランド安・円高)となった。

前半は8.40円を挟んで様子見ムードが継続。米国と北朝鮮の緊張度合いの高まりや米年内利上げ期待後退を背景に、米長期金利が低下してドル安が進む中、ランド/円はドル/円とドル/ランドに挟まれて方向感が定まらなかった。21日に南ア中銀(SARB)理事会が予想外の金利据え置きを発表するも、ランド買いの動きは一時的であった。

しかし、その後は米連邦公開市場委員会(FOMC)後に年内利上げ期待が浮上してドル買いが強まり、対ドルでランドが軟調に推移したことから弱含みで推移。28日に約1カ月ぶり安値となる8.250円まで続落した。



## 四本値

OPEN	8.448
HIGH	8.549
LOW	8.250
CLOSE	8.288

5日	南ア4-6月期国内総生産(GDP)は、前期比年率+2.5%と予想(+2.3%)を上回った(1-3月期は-0.7%→-0.6%に修正)。ただ、ギガバ財務相が「成長率の改善は心強いが喜ぶのは時期尚早」「国内経済が直面している大きな課題をなお直視しなければならない」「貧困、失業、格差が長引く低成長で存在し続けていることが依然として課題」など、慎重な見方を示した。
12日	ギガバ財務相が「2017年の経済成長率見通しが政府目標(1.3%)に届かない恐れがある」「過去2期連続のマイナスから脱却したからといって、到底満足できない」などと発言した。
13日	南ア7月小売売上高は前年比+1.8%と予想(+2.5%)を下回った。
14日	南ア7-9月期経常収支は、対GDP比で2.4%の赤字(予想:1.9%の赤字)となった。
20日	南ア8月消費者物価指数は前年比+4.8%と7月(+4.6%)を上回るも、予想(+4.9%)を下回った。
21日	SARBは、利下げ予想に反して政策金利の据え置き(6.75%)を決定。ランド買いが優勢となった。声明で「金利据え置きか利下げを巡り、3対3で意見が分かれた(最終的に総裁判断で据え置きを決定)」「インフレ期待は中銀目標(年3~6%)の上限付近に抑制されており、均衡した金融政策スタンスの維持が適切と判断」などとした。
29日	南ア8月貿易収支は59億ランドの黒字と、予想(21億ランドの黒字)を上回った。

## 日経平均

OPEN	19733.57
HIGH	20481.27
LOW	19239.52
CLOSE	20356.28

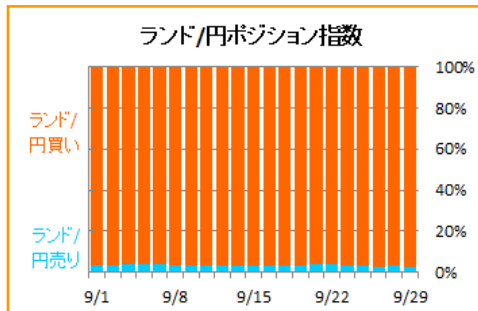
## NYダウ平均

OPEN	21981.77
HIGH	22419.51
LOW	21709.63
CLOSE	22405.09

## NY金

OPEN	1326.90
HIGH	1362.40
LOW	1278.20
CLOSE	1284.80

## 9月のポジション動向



## 8月の南アフリカの注目材料

- ・9月南ア消費者物価指数(18日)
- ・8月南ア小売売上高(18日)
- ・9月南ア生産者物価指数(26日)
- ・7-9月期南ア失業率(31日)
- ・9月南ア貿易収支(31日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

## 10月の見通し

ランド/円相場は、2017年3月に9円の大台乗せに失敗した後の下押しが7.90円前後に留まり、その後は三角もち合いを形成。8月後半に8.50円台まで値を上げるももち合い上限に届かずに失速しており、目先はもち合い下限(今月は8.10円台)を試しやすいと見る。ただ、もち合い形成前が上昇トレンドであった事から、もち合い下限に接近すると買いが入る事も考えられる。

もっとも、米年内利上げ期待を背景としたドル高の影響を受け、ランドは対ドルで10月3日に4月以来となる安値水準に下落している点に注意したい。10月に入ってからNYダウ平均が史上最高値を更新しており、本来ならばランド買いが入りやすい局面ではあるものの、南アの政局不安や根強い南ア中銀(SARB)の追加利下げ懸念なども、ランド相場の重しとなっている模様である。ファンダメンタルズ面からは、下値を試す動きが先行しやすいと見る。もし前述の三角もち合い下限を割り込んだ場合は、下落トレンドに移行する事も考えられる。もち合い下限を巡る攻防に注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 7.900~8.600円)